

はじめに

みなさんはじめまして。リスタコート開発者の重野と申します。まず、最初に、なぜ、どういった経過で私がリスタコートコーティングシステムを開発するに至ったか、そこから簡単にお話させていただきます。

弊社はビル管理業を主な生業としておりますが、以前の私は某企業の研究所に研究員として勤務いたしておりましたが、自分の力を試してみたいと、34歳で私自身が脱サラで始めた会社です。

現在、ビルメンテナンス・清掃業界において、床の清掃管理の2大要素ともいえる「日常管理」「定期清掃」はまさにワックスを中心に回っています。

しかし、ワックス工法の問題点として、例えばウエット工法では、ワックスの汚れの落ち込みから来る、黄変、抱き込み、ビルドアップ、その汚れた床を回復するための、剥離作業です、皆さんご存知のように、剥離作業は施工単価の中に入れることが難しいことです、よって、剥離作業は赤字を生むだけの作業であるばかりか、転倒事故などの「安全面の問題」や汚水排水による「環境問題」、建物への悪影響などです、大きな現場になりますと、洗浄、ワックス塗布と剥離作業が同時進行ということも起こりえます、また、ドライ工法も予防清掃の見地から、ダスタークロスがけ、洗浄、バフがけと、汚れが下に落ち込む前に行いますが、これとて個人差が非常にあり、汚れの抱きこみ、焼きつき、不陸によるムラ当が発生します、また、ワックス工法は誰でも施工できるため、差別化がはかれず、施工単価はどんどん下り続け、現状では原価割れを起こしてしまうような状態です、この様な状態の中、私は従来のワックスからもっと性能の高いコーティング剤に切り替えることを思い立ちました。そこでいくつかの製品を購入し使ってみました、いずれも耐久性・光沢の低さ、ヒビ割れの問題などが生じ、結局は断念せざるを得ませんでした。

しかし、今後の清掃業界におけるコーティング剤の可能性を考えてみると、そのままお蔵入りするには惜しい話でした。

そこで私はコーティング剤を自社開発、自社使用できないかと考え、そして実行に踏み切りました。というのもわたしは以前、某企業の研究室で、チッソ化ケイ素、つまりセラミックスの成分で、シリコンの原料を用いた開発を行っていたことがあり、その経験を元に「自分なら問題点を克服したコーティング剤を作れる!」という自信めいたものがあったからです。

そして数年間の研究の末、遂に念願のリスタコートを完成させました。リスタコートは食品添加物・医療・化粧品等に応用されているシリコン系のコーティング剤のため安全性も高く、施工・メンテナンスの際に有害な汚染排水を出す事はありません。また、リスタコートの魅力は何といても薄いガラス張りのような光沢と脅威の耐久性から繰る高い経済性です。

そして、そのリスタコートの更なる光沢・耐久性の追及から優れた耐候性・分散性を持つ酸化チタンに着目し、配合した結果、光沢・耐久性アップと共に、太陽や蛍光灯などの紫外線があたることで静電防止や抗菌、消臭作用などのある光触媒機能が付与いたしました。

そのことにより、床用だけではなく、外部、内部、水周り、木、石、金属、プラスチックに塗布することで、コーティングと光触媒の機能を発揮する、光触媒機能つきリスタコートを、皆さまがそれぞれの目的に応じ、簡単に取り扱えるようシステムを付加し、今回のご紹介に至りました。

開発室長 重野 勉